

「施策」総括票

施策展開	1-(1)-ア	生物多様性の保全	
施策	②外来種対策の推進		12頁
対応する 主な課題	○マングース等の人為的に持ち込まれた外来種が在来希少種の生存を脅かしているなど、本県の在来種の多くは生存の危機に瀕している。		
関係部等	環境生活部		

I 主な取組の推進状況 (Plan・Do)

(単位:千円)

平成24年度				
	主な取組	決算見込額	推進状況	活動概要
○マングース等外来種防除対策				
1	マングース対策事業	221,252	順調	○マングースの北上防止柵を新設するとともに、191個体を捕獲した。また、希少種回復状況調査を実施し、ヤンバルクイナの推定個体数が平成17年度の700羽から1,500羽に回復していることを確認した。 (1)
○新たな外来種の侵入防止対策				
2	外来種対策事業	-	順調	○外来種であるオオヒキガエルのキャンプキンザー(浦添市)における侵入状況を関係機関(県、環境省、浦添市、海兵隊環境保全課)で確認し、できる限り捕獲した。 (2)

II 成果指標の達成状況 (Do)

(1) 成果指標

	成果指標名	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
1	沖縄県北部地域におけるヤンバルクイナの推定生息範囲	173メッシュ (23年)	179メッシュ (24年)	180メッシュ	6メッシュ	-
	状況説明	平成24年度の調査の結果で、ヤンバルクイナの推定生息範囲が173メッシュから179メッシュに増加し、沖縄県北部地域におけるヤンバルクイナの推定生息範囲が拡大しており、H28目標値の180メッシュに対し、現状値ですでに179メッシュであることから、成果指標を達成できる見込みとなっている。				

様式2(施策)

(2)参考データ

参考データ名	沖縄県の現状			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—

Ⅲ 内部要因の分析 (Check)

○マングース等外来種防除対策

・本島中南部では、マングース生息密度が高く、多数の個体が生息範囲を本島北部に拡大していることから、旧来の北上防止柵(大宜味村塩屋～東村福地ダム)より北にある根絶した地域への再侵入防止策の検討が必要である。

○新たな外来種の侵入防止対策

・平成21年度、平成22年度に本県における侵略的外来種の侵入状況調査を実施したところだが、その後の定着状況、生息範囲の拡大等を確認する調査は実施していない。

Ⅳ 外部環境の分析 (Check)

○マングース等外来種防除対策

・これまでの捕獲によりマングースの生息数が低密度化していることから、従来の方法では今後の捕獲が困難になっている。

○新たな外来種の侵入防止対策

・農作物へ被害を及ぼす外来種については、有害鳥獣として市町村等が駆除していることから、市町村等に対して、有害鳥獣の駆除に関する制度や補助金の周知を図る必要がある。

Ⅴ 施策の推進戦略案 (Action)

○マングース等外来種防除対策

・新たな北上防止柵(大宜味村塩屋～東村平良)と旧来の北上防止柵(大宜味村塩屋～東村福地ダム)に挟まれた地域を緩衝地帯とし、旧来の北上防止柵より南の地域からのマングースの侵入を阻止する。

・マングースの生息数が低密度化した地域における、より効率的で効果的な捕獲方法を検討する。

○新たな外来種の侵入防止対策

・外来種の侵入状況に係る情報収集を行い、外来種の定着状況・生息範囲の拡大等を確認する調査の必要性について検討する。

・市町村が有害鳥獣として駆除する外来種については、鳥獣被害対策を所管する農林水産部と連携して、市町村担当者への説明会等を行い、有害鳥獣の駆除に関する制度や補助金の周知を図る。